

【平成 30・31 年度鳥取県協働提案・連携推進事業 成果報告】
古民家長谷川邸を拠点として、鳥取県東部地域の地域資源を
発掘して進める観光立県推進事業

1. 【NPO 等】事業実施団体

特定非営利活動法人グリーンツーリズムもちがせ（鳥取市）

- ・鳥取市用瀬町において、少子高齢化による人口減少、都市部への人口流出を原因とする空き家対策等に関する事業を行い、地域活性化に寄与することを目的とする団体。

2. 【行政】県協働担当課

観光戦略課

- ・鳥取県の観光振興を担当する部署。地域及び経済の活性化を図るため、自然・歴史・文化などの観光資源の掘り起こし・磨き上げや、訪れる人々を温かく迎える意識の醸成など、本県の観光魅力の向上を図るとともに、県外からの観光客誘致に努めている。

3. 課題及び目的

用瀬地域は、東部観光を戦略的に考えた場合にかかなりの好立地であるにも関わらず、本格的な宿泊施設が無いため、滞在型観光を展開できない課題を抱えていた。

そこで、これまで注目されていなかった鳥取市南部地域での体験型古民家民泊による滞在型観光を推進することにより、交流人口を増やし、地域の誇りを醸成し、地域の元気を創造することを目的とした。

併せて、県の主要政策である「食のみやこ鳥取県」も推進し、地域の農林水産物の需要を喚起し、地域の雇用創出につなげ、中山間地域に経済効果をもたらすことを目指した。

4. 課題解決の手法

(1) 民宿開業に向けての事前準備

昭和 11 年(1936 年)に鳥取の中山間地域に建てられ、伝統的な日本家屋として建築史上でも高く評価されている古民家長谷川邸を、宿泊可能な施設とし、また地元食材を使った料理を提供できるよう、民宿営業許可を取得するために必要な整備を行った。

(リノベーション)

女性客が利用しやすい洗面所の新設、トイレ増設、宿泊者に地元食材を楽しんでもらうために厨房改修のリノベーション工事を実施した。また地域住民の方からシステムキッチンの無償提供もあり、非常にクオリティの高いリノベーションが出来上がった。



(民宿及び飲食店の営業許可の取得)

長谷川邸の建築物用途は住宅であったが、関係機関との協議を重ねた結果、住宅用途のまま、旅館として営業可能であることが分かり、開業に向けて進むことができた。

併せて、地域の伝統的調理法や地域の産物にこだわった食文化を味わっていただくため、飲食店の営業許可証も取得した。



(2) 実証実験の開始

(名称の決定)

民宿の目指すところは、愉しく癒される宿（愉癒）であり、また家族や友人との縁を結び直す宿、中山間地と都市圏の市民を結ぶ宿であることから、そうした思いを込めて「ゆいの宿 古民家長谷川邸」と命名した。

(魅力的なアクティビティの創造)

アクティビティとして、電気窯や炭窯を用いた陶芸体験や、和装で着飾り日本髪へのヘアメイクをして用瀬の古い町並みを歩いてもらう女子力アップツアー、ドライフラワーで作るハーバリウム体験など、訪日外国人旅行者から地元観光客まで楽しんでいただけるよう多彩なプログラムを用意した。



(3) 民宿の開業

事前準備を整え、令和元年9月から実証実験として旅館業業務を開始したところ、概ね順調に推移。しかし、開業届を提出しようとした矢先に新型コロナウイルスの蔓延が始まり、その後観光需要は大きく冷え込み、ゆいの宿も他の宿泊施設同様、大きな打撃を受けている状況。

5. 主な役割分担

【事業実施団体】

- 民宿営業に向けた事前準備（施設整備、各種許可取得、アクティビティの創出など）
- 民宿の管理運営
- 国内外に向けた情報発信

【行政】

- 民泊営業に向けた旅館業及び飲食業許可等に係るサポート
- 鳥取県観光連盟や麒麟のまち観光局との連携支援
- 情報発信への協力

6. 成果

• 地元住民の雇用

家屋の管理や配膳等を長谷川邸の近くに住む主婦3名に依頼することで、地元雇用を生み出し、地域活性化の推進を図った。なお主婦からも、鳥取の中心市街地までアルバイトに出ることなく、自分の可能な時間に歩いて行ける場所で勤務できると大変喜ばれた。

• インバウンドの呼び込み

行政や国内旅行会社による積極的なPRの効果もあり、また香港及び中国・大連からマスコミ取材や旅行代理店の視察ツアー等があり、その結果が新聞やSNS（Instagram、Twitter、Facebook など）で取り上げられたことにより、令和元年9月以降、香港、台湾を中心に、フランスや中国なども含め、インバウンド客が多く訪れるようになった。（売上ベースでは利用客の85%が外国人）



• 地域食文化の再構築と地産地消

長谷川邸での料理について、鳥取市用瀬町の特定非営利活動法人十人十色のケータリングサービスを利用。また食のみやこ鳥取県づくり支援交付金の採択を受け、新メニュー「姫御膳」を開発。地物と調理法にこだわったコース料理で、野菜や山野草を地元の方から購入。地元の方からは、裏山の葉っぱがお金になると思わなかったと驚きつつも大変喜ばれている。



以上のように、本取組は地域資源を発掘し、交流人口の増加につなげるとともに、地域に経済効果をもたらす仕組みの構築であり、過疎と高齢化が進行し地域の消滅の危機にある中山間地域における課題解決のモデルケースとして非常に好事例になったと考える。

7. 事業終了後の状況

令和元年末までは順風満帆であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、1月以降はキャンセルが相次ぎインバウンド需要が崩壊。自粛ムードの高まりと共に国内旅行や飲食の需要も冷え込んだ状況が続いている。

今はじっと耐える時期であり、これまでの利用者にメールで案内を送るなど地道な努力を続けながら、新型コロナウイルスの収束を待ちたいと思っている。